

碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
 神奈川 碩心 会 発行

12年 5月現在 逗葉大 (合)	2年 5月現在 子山船 地区地 計	会員数 128名 187名 30名 345名	12年 5月 (334号)	発行者 千 葉 岳 関	編集者 白 井 岳 麗
------------------------	----------------------------	------------------------------------	---------------	-------------	-------------

行事予定

碩心会行事

○碩心会総会

日 時・6月4日(日) 18時より
 場 所・逗子市図書館講座室

県本部行事

○年齢別コンクール(第二日)

日 時・6月4日(日) 9時
 場 所・地球市民かなざわプラザ

碩心会の会員は全員6月4日に出吟致します。応援をお願いします。

○県本部総会

日 時・6月11日(日) 10時受付
 場 所・神奈川県横須賀商工労働センター

○神奈川地区吟道大会

日 時・6月25日(日) 9時30分受付
 場 所・海老名文化会館

碩心会の出吟は 合吟男女二組

男性 20名

吟題 偶成

女性 24名

吟題 太平洋

○第三回碩心会夏季吟道講座

日 時・7月9日(日) 9時30分受付

9時45分開講

会 場・逗子市図書館ホール3階
 受講料(千円)テキスト、弁当、お茶含む
 各支部毎にまとも、教務部長杉山岳雪迄
 締切日・6月18日(碩心会温習会迄)

第一講 松 井 正 岳 先生

課題 新潟に宿す

第二講 中 村 岳 愛 先生

課題 兎島高德桜樹に書するの図に題す

第三講 加 藤 岳 洵 先生

課題 ふるさとの山

安政六年十月廿日書簡

第四講 加 藤 岳 相 先生

課題 千曲川旅情

第五講 千 葉 岳 関 先生

課題 俳句 五題

詩吟は心の支え

戸塚支部 鈴木 岳浩

いつも頑心を楽しく読ませて頂いておりませんが、書くとなると苦手です。

何の為に吟の道に入ったかと問われると確かな回答に苦しみますが、色々ありますが、私は私なりに自分の心の中の寄り所だと考えております。

私の入会したのは40才はじめのまだ血氣盛んな頃でした。苦しい時は吟を口ずさんで頑張りました。日柳燕石の娑婆歌の一節目の
縦い鉄鑊の湯を呑むとも

男子の腸を交ぜず

が好きでした。その後50代には風景詩を好むようになり、又西郷南州作の詩を好むようになりしました。

年を重ね、何時の間にか70ん才になってしまいました。長い吟との付き合いには数えきれない思い出があります。先輩諸先生の吟も感じ入りますが、人間としての生き方、また人との付き合い方にも大いに学ぶべき所がありました。

私はいつも支部の皆さんに言っていることですが、吟は人に聞かせると言うよりも、自分の心に聞かせるものだと話しております。たとえうまく吟じられなくとも、自分で精一杯吟ずれば、それで良いと思います。戸塚支部は吟はあまり上達せず、支部も遠いために会に迷惑ばかりかけていることを心よりお詫び申し上げます。

私自身も仕事が第一と考え、余暇をつくって吟に励んでおりますので、不熱心な私達を宜しくお願い申し上げます。

皆伝会に参加して顧みる

逗子A支部 舟 渡 岳 船

春の麗かな逗子湾を望む逗子会館「二階ゲリル」に於て、今年も新皆伝の方を迎え恒例により「皆伝会吟の集い」が催された。

席は序列なく定刻10時に葉山地区長沼田岳義先生の力強い開会のことばに始まり、頑心の詩を鈴木岳抄先生の先導にて合吟する。

第一部会員吟詠は新皆伝者より始まる。昼食後テラスに出て相模湾の沖合を眺め「春の海」を想う。

会長、千葉岳関先生より新皆伝に入会された方々に対するお祝いのことばと、頑心会の益々の発展を祈念する挨拶があった。

続いて総務部長、松井正岳先生が「皆伝会の開催日について今回は連休に設定したため家庭の事情もあつて出席率が悪く次回より良き日を選びたいと思うので御協力願いたい」とのことであつた。

第二部は会員の詩舞、初夏にふさわしい三題が披露され何れも見事な舞であつた。

第三部の後半は吟歴の長い諸先生の声量豊かな吟詠に感銘し、初心に戻り吟法を学ばねばと誓つたのは私一人ではないと思う。

引続き懇親会に入り、顧問加藤岳相先生が新皆伝者の入会を祝い乾杯する。

懇親会はカラオケに始まり、歌謡、演歌と続き民謡も交じえ、楽しく親交を深めることができました。

皆伝会の折句

松和支部 宇都宮 禿 象

重ね来て 今まで練りし 伝統の

皆伝の吟 生かし残さむ

皆伝会吟の集いに出席して

悠吟支部 小野 祥 岳

「皆伝と云うのは、昔から免許皆伝と云ってすべてのことをマスターしたと云うことだ」と千葉岳関先生のお話を聞き、「年数だけは足りたけれど名前は重荷だな、これからは今までのような甘えた気持ちではいけないのかも」と自分を戒めたばかりのところへ「皆伝会吟の集い」の出席案内を頂き、はじめてのことであり諸先生をはじめ先輩の方々に親しくお目にかかり、色々お教え頂けることと思い主人と二人出席させて頂くことにしました。

当日は気持ちのよい五月晴れで、逗子会館二階のグリルから眺める海はまぶしく、そよ風は頬にこちよく、5月5日（こどもの日）にふさわしい恵まれた天候でした。

10時開会のことばのあと碩心会の詩を全員で合吟し、いよいよ会員吟詠に入りました。自分の出番が近くなると胸はドキドキとして落ち着かなければと必死に云いきかせましたが、舞台上立つと折角つけていただいた尺八の伴奏もよくわからず、思ったような吟が出

来なかった自分の腑甲斐なさを恥じておりません。

プログラムがすすむに従い始めて聴く吟、長い詩、新体詩など他の大会では聴くことのない先輩方の吟に感激し、特に諸先生方の吟には心打たれるものがあり、これからはたとえ半歩でも一歩でも近付くことの出来るように精進を重ねなくてはと思いました。

懇親会になりますとオードブルに飲物が出て、なごやかに無礼講のひとときを過ごし、とても楽しく思いがけない一日でございました。碩心会の中に皆伝以上の方が一五四名もいらつしやることもはじめて知りました。その末席に名を連ねさせて頂くことが出来ましたのも、熱心な先生方の御指導の賜と、楽しく明るい周囲の方々のお陰と感謝し、今後も一生懸命努力させて頂く所存でございますので御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

長柄支部 石 井 虹 岳

風もさわやかな5月5日、お天気にも恵まれ逗子会館からの海のながめも素晴らしく、青い海にヨットの白い帆がまぶしい日でした。

初めて皆伝会吟の集いに参加させて頂き、大勢の先生方を前に緊張で胸がドキドキしてしまい、石川響風先生がつけて下さった尺八の音もどこから入ってよいのか解らず、勝手に始めてしまい気が付いたら終わっていました。

会長千葉岳関先生のお話しの中に、碩心の会報4月号にふれられ、次の三つの重要な事項が出ているので保存して皆さんにも読んで欲しいとのことでした。

- 一、加藤岳相先生の審査の心がまえ
- 二、松井正岳先生の三つの気について
- 三、伝号の不動文字について

このことを良く認識して、もう一度初心に帰り有言実行をしたいとお話しがありました。加藤岳相先生より尺八の伴奏があるときの吟じ出しのタイミングについてお話しがありそのあと先生方のすばらしい舞や、迫力ある吟を聞きながら一日はあっという間に終了となりました。

仕事の都合上、中々お稽古もままならず細々と続け、先生を始め皆さんのおかげでやっとな皆伝までたどりつき本当に良かったと思っております。これからも続けられる限り頑張ってみようと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

尺八の伴奏につて吟じましょう

加藤 岳 洵

皆伝会の折、尺八伴奏がありました。吟じ出しの要領を参考までに述べてみます。

- 一、尺八は吟者の希望する音階の主音で始まり、高音部に入ったあと元の主音に戻って消えます。吟題を発声するタイミングは前奏が始まってから一呼吸した頃で、高音になった時に「吟題と作者名」を発声します。
- 二、吟じ出しは尺八が主音で静かに消えた時に、半拍おいてその主音(自分の本数)で吟じ始めます。
- 三、吟題と作者名の発声は疎かにせず、ここから吟詠を始める意識をもって、常に自分の主音(本数)で発声するように心掛ける。
- 四、先に吟じる人の音階につりこまれて、惑うことのないように聞き入り過ぎぬこと。

自分で選んだ「本数」はいつでも自分の吟詠の基準音「ミ」となります。途中で声が出なくなってしまう事のないよう、調子笛、コンダクターなどで正しい「音程」を確かめる習慣を身につけたいものです。

第8回葉山芸術祭に参加して

滝の坂支部 加藤 岳 洵

去る4月22日より5月13日まで、第8回葉山芸術祭のイベントが行なわれ、後援は葉山町、NHK横浜、TVKテレビ、神奈川新聞社等であった。国際村その他にわたり各地で催しが実行され、その一部として5月6日(出)に森山神社の境内に於て「和と洋の調べ、森山神社33年祭創作オペラ「櫛稲田姫」」が上演された。主演は葉山在住のオペラ歌手、矢島瑪紅美さんで謡曲・シンセサイザーその他を組み合わせた舞台であった。

助演として詩舞紫舟流の小林玲舟先生と同じく紅舟会の白井紅舟先生が舞をされた。境内には青竹を組んだ櫛席も用意されて、夕方から集まった観客は照明に泛かび上った野外シアターのオペラに拍手を送った。同日の午後は1時30分より、滝の坂支部の構成吟「花の幻想」を朗詠し紅舟会の方々が詩舞で出演された。千葉岳関会長より、詩吟の宣伝のためにと奨励されましたが、次回は多くの方の参加をお待ちすると実行委員会の希望でした。

俳句

岩崎 岳 恵

雲一つ海へ追ひやる松の芯
土牢へ寂光運ぶほととぎす

山口 岳 夕

星の井戸覗く女人の春の夢
猫柳土蔵が秘めし宿場町

寺脇 岳 宇

照り返す青葉のひかり山近し
藤の房風にゆらぐも溪の中

退会

177 角田浪岳(死去) 419 林田久山(死去)

(一色) (幸和)

380 高田修平(松和)

編集後記

声楽家の平山忠純氏は「詩吟は魂を揺さぶるいい節調を持っている。本当にいい吟詠に出会うと、涙を流すほどの感動を与えるというのは、他の歌曲では考えられないことで、詩吟は日本が世界に誇るべき歌曲であると思ふ。だが、発声が悪く、音程が不正確で、表現力が伴っていないと興ざめである。」と。このすばらしい詩吟を志している私達は、日頃の練習の中で特に、詩心、発声、音程、これらを充分心して研鑽したいものです。

(編集子)